

平成29年度 石狩川上流 河道管理ワーキング 議事要旨

- 日時：平成30年2月5日（月）13：00～16：30
- 場所：平成29年度施工箇所、旭川開発建設部 入札執行室
- 委員名簿：

所属等	氏名
北海道大学大学院工学研究院 教授	泉 典洋
NPO 法人環境防災研究機構北海道 代表理事	黒木 幹男
北海道大学大学院工学研究院 教授	清水 康行
国土技術政策総合研究所河川研究部河川研究室長	諏訪 義雄
国立研究開発法人 土木研究所 寒地土木研究所 寒地水圏研究グループ寒地河川チーム 上席研究員	矢部 浩規
北見工業大学工学部地域未来デザイン工学科 教授	渡邊 康玄

※委員五十音順、敬称略

- 議題：
  - ・これまでの経緯とH29年度工事内容
  - ・H29 モニタリング結果報告
  - ・比高差に関する検討

【議事要旨】意見交換会

<主なご意見・意見交換>

項目	意見内容
<p>これまでの経緯と H29 年度工事内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 河床低下防止ネットは今後どのように適用する予定なのか。</li> <li>→ 現在は秋月橋の左岸側にネットを設置することを考えているが、今後のモニタリング等で他箇所へネットを設置する必要性が生じた場合は、適用範囲を拡大することもあり得る。(事務局)</li> <li>・ 河床低下防止ネットの目的を明確にして、試験施工の評価方法を考えたほうが良い。</li> <li>・ 節理が横方向に入っている岩にネット固定用アンカーを短い間隔で打ち込むと、岩を痛めてアンカーが抜けることがあるので注意が必要である。</li> <li>・ 試験施工の目的を整理すること。</li> </ul>
<p>H29 モニタリング結果報告</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 河床低下対策工実施前と比べて対策工実施後の露岩面積が大幅に減っているため、対策工の効果があつたと評価できる。H28 対策工実施済み区間が露岩した要因の 1 つは、上流からの土砂供給量が少なかったことによるものであり、今後、対策工が上流側に進むことで露岩範囲は減少すると思われるので、これからも今の対策工法で上流側に施工を進めるのが良い。</li> <li>・ 露岩範囲図に加えて、岩盤上に堆積している土砂厚さを表現するコンター図があれば分かり易くなる。</li> <li>・ 順応的管理の閾値で対策検討範囲にプロットされている KP159.7 は、対策を検討したほうが良い。</li> <li>・ 今回の仮締切で設置した根固めブロックが流れた際の水量を整理しておくこと、今後、河川内に横断構造物を設置する際の参考になる。</li> <li>・ 縦断図上にある推定岩盤線については、工事実施後のモニタリングを行う上でも重要であるため、低水路内の岩盤ラインは把握すべきである。</li> </ul>
<p>比高差に関する検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 比高差の管理基準値について、1.0m で注意、1.5m で対策検討と 2 段階に分けても良いのではないかと。</li> <li>・ 評価指標を踏まえて砂州を管理する際は、比高差だけに着目するのではなく、冠水しない期間にも着目すべきである。</li> <li>・ 樹林化が進んでからでは対策するのが大変だという情報があつたほうが良い。樹林化による二極化の進行と軟岩が露出して意図しない洗堀が進むことが問題なのだから、砂州高だけでなく、樹林化の抑制機構（砂礫が移動して樹林が流出する・埋没して枯死する、融雪出水等で種子が流れつかないと樹林が生えない等）、軟岩の露出及び意図しない洗堀の機構（移動する礫が削るのか高流速のせん断力が削るのか）を踏まえた管理基準に改善していけるとよいのではないかと。</li> </ul>

● 現地視察の様子



● ワーキングの様子



**【お問い合わせ先】**

石狩川上流 河道管理ワーキング事務局  
北海道開発局 旭川開発建設部 治水課  
〒078-8513 旭川市宮前1条3丁目3番15号  
TEL 0166-32-4245、FAX 0166-32-2927